

会議録

会議名	第3回 八王子まち・ひと・しごと創生総合戦略推進懇談会	
日時	平成27年10月5日（月） 午後7時 ～ 8時30分	
場所	八王子市役所 本庁舎 701会議室	
出席者氏名	参加者	芦川正明、石川敏之、伊藤史子、大島紀代、落合隆、栗本正男、嵯峨洋輔、高橋新也、中庭光彦、前田伸也
	事務局	伊藤紀彦（都市戦略部長）、立川寛之（都市戦略課長）、今井明（都市戦略課主査）、実森将人（都市戦略課主任）、金子正明（都市戦略課主事）、佐藤幾子（都市戦略課主事）
	その他市出席者	木内基容子（総合経営部長）、大野哲宏（市民活動推進部長）、大西健二（産業振興部長）、小澤篤子（子ども家庭部長）、駒沢広行（都市計画部長）
欠席者氏名	なし	
議題	<ol style="list-style-type: none"> 1. 開会 2. 八王子市まち・ひと・しごと創生総合戦略（案）について 3. その他 4. 閉会 	
公開・非公開の別	公開	
非公開理由	—	
傍聴人の数	なし	
配付資料名	資料1 八王子市まち・ひと・しごと創生総合戦略（案） 資料2 第2回懇談会議事録 資料3 八王子市まち・ひと・しごと創生総合戦略 数値目標・KPI一覧	
会議の内容	別紙のとおり	

1. 開会

2. 八王子市まち・ひと・しごと創生総合戦略について

《説明》

【事務局】

（配付資料1についての説明）

《質疑》

【落合座長】

- ・資料16ページの産業大分類別事業所数について、情報通信業の事業所数は誤りではないか。また、「卸売業」について、「卸売業、小売業」とした方が分かりやすいのではないか。

（事務局から説明）

- ・確認し、対応する。

【石川氏】

- ・総合戦略では重点ターゲットを大学生及び若年層としているが、各政策軸の基本的方向性の中で、ターゲットに対する取り組みの考え方を示す必要があるのではないか。
- ・しごとづくりの面で、第一次産業の担い手などが高齢化していくことに対し、どの様に取り組んでいくのか。

（事務局から説明）

- ・各施策や事業の中で、重点ターゲットに対する取り組みを記載している。各政策軸の基本的方向性には、そのような個別具体的なものではなく、大きな考え方を示す部分であると考えている。この基本的方向性に基づき、当面5年間は重点ターゲットに対し網をかけて取り組んでいくというものであるため、これを特別に抜き出して記載する考えはない。
- ・第一次産業の担い手については、資料59ページの「本市の特性を活かした産業の支援」に項目を設けて記載をした。意見をいただいた通り、農業の担い手育成ということが、高齢化への対応という点で重要であると考えている。今後、総合戦略のローリングをしていく中で、取り組みを更に充実していくことも考えられる。

【石川氏】

- ・もう少し、若年層に対してどの様に取り組むかという方向性が必要なのではないか。
- ・学生は、平日は大学への通学や終業後の飲食などで市内にいるが、それでまちの魅力を感じてもらえるかは別である。平日よりも休日にまちの魅力を感じてもらうことが必要。サークルやゼミに所属する学生以外に魅力を感じてもらうことも必要。

（事務局から説明）

- ・魅力を感じるという部分では、政策軸④で考え方や施策を示した。シティプロモーション基本方針においてもターゲットを大学生と若年層にしており、この中に含まれると考えている。

【石川氏】

- ・今後、外国人旅行者を含め、外国人の来訪や定住が増えてくると思うが、これに対応する取り組みは総合戦略に含まれているのか。

（事務局から説明）

- ・観光地の魅力の向上に向けた取り組みとして、外国人観光客に対応できる体制づくりを進めて行く旨を表記した。2020年オリンピック・パラリンピックも控えており、必要なものであると考えている。

【産業振興部長】

- ・高尾山口の観光案内所では、多言語対応の体制をとっている。また、新たに開設した高尾599ミュージアムのホームページは、7か国語で閲覧可能となっている。

【石川氏】

- ・外国人が気軽に宿泊できる所が市内には無い。是非そのような施策にも取り組んでほしい。
- (事務局から説明)
- ・これから具体化を検討していく段階であるため具体的な表現にはなっていないが、「外国人の滞在ニーズに応えるための特区制度の活用」として総合戦略でも位置づけている。

【高橋氏】

- ・目指すべき将来の方向として、出生率の上昇と学生の流出抑制を掲げているが、そのために直接的に何を行うかというつながりが無いのではないか。
- (事務局から説明)
- ・直接的に、1つの取り組みを実施することで達成できるものではなく、4つの政策軸が目標を達成するためのものであるという考えでいる。

【高橋氏】

- ・KPIと施策のつながりが見えづらい。PDCAサイクルをまわしていく際に、このつながりがあった方が良いのではないか。
- (事務局から説明)
- ・多くの施策がある中で、KPIと施策を1対1にすることには難しさがある。
 - ・個別の事業がKPIに対してどのような影響があったかについて捉えることは困難な部分もあり、定性的なものになるかもしれないが、評価していきたい。

【芦川氏】

- ・時間軸が分かるような形で優先順、ロードマップを示すとチェックしやすいのではないか。
- (事務局から説明)
- ・八王子ビジョン2022アクションプランは、3か年の実施計画として時間軸を示している。総合戦略はアクションプランで位置づけられた施策を引き抜き、横串を刺すものであることから、アクションプランでは総合戦略に位置づけられた事業が分かるようになっている。そこで、時間軸についてはアクションプランで示していきたい。

【伊藤氏】

- ・合計特殊出生率について、現状値が国よりも低いことを踏まえ、国が2.07を目指すところ八王子市では平成52年に1.8とすることを目指すとしている。平成52年は将来人口推計の最終年である2060年ではなく、平成52年に1.8という出生率は国の目指す数値と同じものになってしまっているように思うが、これで正しいのか。確認をお願いする。
- (事務局から説明)
- ・確認する。

【伊藤氏】

- ・政策軸の1つ1つに、市ならではのものが入った方が良いと思う。
- ・市政世論調査の分析の中で、八王子市に住んで良かったと思うかという設問についての分析がある。住んで良かったと回答した人が、八王子のどこを良いと思ったのかについて示した

うえで、政策パッケージの中でその良さを活かすという展開にすると良いのではないか。

【中庭氏】

- ・女性の年齢別就業者比率のM字カーブが、八王子市は低くなっている。これを高め、女性の社会参加率を高めないと出生率を上げる圧力にはならないのではないか。男女共同参画だけでは因果関係がはっきりとしない。出生率を上げる取り組みを明確に示す必要があるのではないか。

(事務局から説明)

- ・希望する子どもの数が実現しない理由としては、経済的なものが大きい。直接的にどこまで出生率に結びつくか分からないが、女性の就労支援については再掲して複数掲載している。妊娠からの継続した支援も必要であり、そのような視点については総合戦略でもしっかりと掲げている。

【中庭氏】

- ・重点ターゲットとする「若年層」の定義を明確に示す必要がある。
- ・ターゲットを、あえて男女に分けると取り組みも違ってくるのではないか。(例えば就業率を●%に上げる、そのうち男性は●%、女性は●%など)

(事務局から説明)

- ・男性が女性の社会参加を理解していくことや、企業など、社会全体での取り組みも必要となる。男女の部分をどこまで意識したものと出来るかは分からないが、内容を点検する。

【栗本氏】

- ・町会自治会加入率の現状値が60.8%とあるが、自治会活動をしている中で感じている感覚と差がある。

【市民活動推進部長】

- ・病院や老人ホームの入居者は母数から除いているが、現状値として確かなものである。

【石川氏】

- ・町会自治会の担い手が高齢化し、参加率は低下しているのか。

【栗本氏】

- ・町会自治会の役割や、地域のためにどのような負担を負っているのかについて、未加入者は知らない。例えば、防犯灯の修理交換には町会自治会も負担している。支援の前段階についても取り組んでいかなければ目標は達成できない。

(事務局から説明)

- ・難しい問題ではあるが、一定の加入率がなければ活動を維持できない。今後も取り組みが必要であると感じている。

【大島氏】

- ・大学生が出て行かないように、とあるが、親の立場から考えるとそれは難しいと思う。八王子の良さとして、自然の豊かさがあると思うが、それを享受するだけではだめ。誰かが手入れしているからこそその良さである。大学の授業の中で林業に関わるといった取り組みが必要。普通の大学の授業を受けているだけの学生が卒業後も八王子に残ることは無いのでは。林業についての記載が少ないようにも感じる。
- ・出生率が高まるのは良いことだと思うが、ただ若くして産めば良いというものではない。子育て支援活動を行う中で、子どもを産んでも、育てることが出来ない親もいることを感じている。ひとづくりをしっかりと行って欲しい。

- ・フィンランドの前大統領は、労働法を改正し女性の子育て環境を整えた。国もこのような取り組みが必要である。

(事務局から説明)

- ・市内には里山保全活動を行っている団体もある。そのような活動にも大学生に参加してもらいたいと考えている。
- ・業としての林業を考えると、需要喚起を図ることが必要であり、これにより担い手を確保するという事につながってくるものだと考えており、現時点ではこのような表記とした。
- ・学生の流出を止めるという部分について、本市は転出の幅が大きい現状にある。これをプラスにするのではなく、マイナスの幅を少しでもゼロに近づけていきたいと考えている。
- ・親になる前段階の取り組みも大切であると考えている。総合戦略で示した赤ちゃんふれあい事業といった取り組みもあるので、そういったものを進めていきたい。

【嵯峨氏】

- ・法人市民税の伸び率をしごとづくりの数値目標としているが、税金を上げるために行うのかという様に捉えられてしまわないか。市内企業の利益を高めていくということは理解しているが、市内の赤字企業の黒字化した割合などでは設定できないか。

【産業振興部長】

- ・趣旨は市内に企業を増やし、同時に黒字企業を増やすということ。表現の問題ではある。

【市民活動推進部長】

- ・ここでは、均等割りを払うことが出来る企業を増やすということが大切。それが雇用につながり、学生の流出を防ぐということにもつながってくる。

(事務局から説明)

- ・表現については検討する。

【前田氏】

- ・重点ターゲットを若者としているが、これまでも八王子市でそのようなことを言っているのを聞いた記憶がある。これまでとの違いは。

(事務局から説明)

- ・これまでは学園都市ということで、学生との協働などについて取り組んできた。しかし、今回人口の維持につなげるということの中で、雇用の対象としての学生という考えを明確に出している。学生にとって魅力ある企業群を増やしていく。そういった方向を出したのが今回の特徴である。

【前田氏】

- ・行政内で理解するだけではなく、市民に伝わるものとして欲しい。
- ・八王子は地理的な状況に恵まれている。八王子ならではの「地方創生」を行い、都市部における先行例となるものとして欲しい。

【中庭氏】

- ・結婚支援について記載があるが、全国の事例を見ると自治体が行う婚活への取り組みに成功した例は無い。意識調査で必要とする声が多かったから単純に取り入れるのではなく、効果を見極めて実施してほしい。

【落合座長】

- ・企業誘致の促進について記載があるが、物流や製造業だけでなく、市内へホテルを誘致してほしい。

【大島氏】

- ・高尾に泊まりたくても泊まる場所が無いという声はよく聞く。

【石川氏】

- ・同じような話は、観光客と接する中で良く聞く。また、高尾には観光バスが止まれる場所も少ない。点として魅力ある資源があるが、線になっていない。先ほど話にあがった外国人が泊まれる場所ということも含め、パッケージとして泊まれる場所や行きやすさということも考えてほしい。

(事務局から説明)

- ・現状の企業立地支援制度の中には含まれていないが、旅館業に対するニーズが高いということであれば、検討していかねばならない。今後、地域産業振興会議も開催されるので、その中で議論をしてほしいと考えている。

【落合座長】

- ・京王プラザホテルだけではなく、大きなホテルがもう一つあっても良いと思っている。

【石川氏】

- ・新たな企業を誘致することも必要だが、これまでつながってきたローカルなものを今後も守っていくことも必要ではないかと思う。市内で最後の酒蔵であった中島酒造の廃業は大きな損失だと思う。

【産業振興部長】

- ・既存企業の活動を活発化させることは大切だと考えており、取り組んでいる。サイバーシルクロード八王子では、後継者の育成などのテーマを設定して支援を行っている。こういった取り組みにより、企業にネットワークが出来ることが大切である。
- ・中島酒造については、地域でのブランド発信が出来ていなかった部分もあるかもしれない。魅力をブランド化して発信していくことが大切であり、取り組んでいきたい。

【都市戦略部長】

- ・総合戦略を策定する側では気が付かない視点に立って皆様からご意見をいただいた。今後も様々な視点から意見をいただきたい。

【総合経営部長】

- ・アクションプランは今後3年間に取り組む事業について示すもの。28年度から3か年のものは、ほぼ策定が終わっており、11月1日に総合戦略と同時に公表する予定である。
- ・総合戦略は、既に実施している事業と、アクションプランで示した新規、充実事業を抜き出し、再編集したものである。本市は計画主導予算であり、アクションプラン掲載事業は全て予算化して実施する。その意味で、総合戦略の施策の実効性は担保されている。
- ・事業実施がKPIの実現に直接つながっていくか、という課題はあるが、それは評価の段階において議論してほしい。

【市民活動推進部長】

- ・女性の年齢別就業者比率のM字カーブについて話が出た。就業支援や一度退職した後の支援だけでなく、結婚や出産で女性が仕事を辞めないで済むための対策が本来的には必要である。
- ・学生の流出防止という点では、例えば市内に勤めるオリンパス社員のうち、4割は市内に住んでいる。市としても新たな企業を積極的に誘致していきたい。

- ・町会自治会については、市民活動に関わってもらい、最終的に町会自治会にも参加してもらおうということも必要だと考えている。志民塾など、地道な取り組みをしっかりと進めていきたい。

【産業振興部長】

- ・総合戦略には、産業振興に関わる部分が多い。八王子には、オリンパスやコニカミノルタなど、企業の研究部門が多く集まっている。こういった特色についてはあまり知られていない。本市の特色をブランド化することで、人や企業が集まってくるようにすることが必要だと考えている。
- ・MICEの取り組みも進め、これまでの一般観光だけでは無く、イベントを呼んでくることで交流人口を増やしていきたい。

【子ども家庭部長】

- ・これまで、市は子育てに対する経済的な支援や保育所の増設などを行ってきたが、これは出生率の上昇にはつながらなかった。高所得者が必ずしも子どもが多いわけでもなく、価値観も多様化している。また、年齢を重ねることにより妊娠しにくくなるといった、妊娠・出産に関する知識が正しく理解されていないということもある。
- ・子どもが少なかったとしても、大切に育てることが出来れば良いという考えもあるが、子どもが少ない中で育つよりも、多くの子どもにもまれながら成長していくことが子どもの健全育成にはつながると考えている。

【都市計画部長】

- ・将来のことについて、20年、50年先の話であればいくらかでも夢を語る事が出来る。しかし、5年後のことは慎重に分析を行う必要がある。様々な属性のデータをしっかりと捉え、必要に応じ軌道修正を行っていく必要があるが、まずは今回お示ししたものでスタートしたい。

3. その他

《説明》

【事務局】

- ・今回の意見や市議会からの意見を踏まえ、10月末までに総合戦略を策定する。
- ・懇談会には、今後は総合戦略の進行管理、評価の役割を担っていただきたい。
- ・次回は2月頃に開催したいと考えている。日程については後日調整し決定する。

《質疑》

【石川氏】

- ・懇談会参加者に対しては、公表前に最終版の総合戦略を提供してもらえるのか。
(事務局から説明)
- ・タイトなスケジュールで、公表までの期間が無い中であるが、公表と同時に送りたい。

4. 閉会